

新たな魅力を 発信(進)する

平成31年がスタートしました。

本年は、45年ぶりに茨城県で国体が開催される年でもあります。

私たちが住む東海村は、あの頃からどのように発展し、今後はどのように進化していくのでしょうか。

これからの村政について、山田村長が掲げた3つのキーワード。「国体成功に向けた着実な推進」、「住みやすいまちづくり」、「子育て・教育しやすいまちづくり」の実現に向けて、各項目ごとにご紹介します。



新年あけましておめでとうございます。今年は、5月に新天皇の即位を控えていることもあり、いつもとは雰囲気の違い正月ではなかったでしょうか。

いろいろな意味で節目の年となりますが、今年の秋に、大イベントが控えていますね。「いきいき茨城ゆめ国体2019」です。45年ぶりに茨城県での国体開催ということになります。この間に目覚ましい発展を遂げてきた本村の現在(いま)を、全国の方々にアピールできる絶好の機会と捉えています。

村内で行われるホッケー競技を盛り上げるとともに、多くの村民の皆さまのお力添えを頂きながら、来村者へのおもてなしに努め、本村の魅力をしっかりと伝えていきたいと考えています。

社会環境が変化し、村民ニーズが多様化する中、村政運営には多くの

2019年 村政に関する3つのキーワード



国体成功に向けた着実な推進

9月28日(土)～10月8日(火)開催の茨城国体。村内では、阿漕ヶ浦公園と県立東海高等学校を会場にホッケー競技が行われます。国体開催を契機に「ホッケーのまち、TOKAI」を旗揚げし、機運を醸成していきたいと思ひます。



住みやすいまちづくり

国体開催に合わせて、阿漕ヶ浦公園の整備やJR東海駅西口の再整備を進めます。そのほか、住環境を中心としたインフラ整備を進めるなど、便利で快適なまちづくりを目指します。



子育て・教育しやすいまちづくり

5月に「病児・病後児保育施設」をオープンするほか、待機児童解消の取り組みや、村内小中学校・公立幼稚園の空調施設の整備を進めます。子育て・教育など、若い世代にとって満足度No.1のまちを実現します。

～各詳細は、次のページでご紹介します～



課題があります。

その中でも今年、特に力を入れて取り組むたいのが「国体成功に向けた着実な推進」、「住みやすいまちづくり」、「子育て・教育しやすいまちづくり」です。さらに充実したものになるよう取り組んで参ります。

また、近年、地球温暖化の影響もあり全国的に異常気象が続き災害も多発しています。本村としましても、防災対策には万全を期して参りますが、今年こそは、安寧の年となることを願っております。

東海村長 山田 修

これからも 先進的な取り組みに チャレンジする

今年、いきいき茨城ゆめ国体の開催に合わせて整備を続けてきた阿漕ヶ浦公園がリニューアルオープンします。

スポーツを楽しむ場所、村民が気軽に散策に訪れる場所としてももちろん、子どもたちの遊び場や親子の触れ合いの場としても充実させ、阿漕ヶ浦公園を皆さんに愛される村民憩いの場となるようにします。また、国体開催時には、この場所を中心として全国へ東海村の魅力を発信していきたいと思っています。

一方、新たな子育て支援策として整備を進めてきた「病児・病後児保育施設」は、本年5月にオープンする予定です。多様化する子育て世代のニーズに応え、これからも子育てしやすいまちを目指していきたいと思っています。

今後とも、村内外から注目される自治体として、先進的な取り組みやさまざまな魅力を、積極的に発信していきます。

2019年 東海村が進化中

新たな魅力を 発信(進)する



「国体成功に向けた着実な推進」

いきいき茨城ゆめ国体2019

昨年のリハーサル大会では、社会人の男女40チームが熱戦を繰り広げました。大会運営では、村民の方や団体、企業、県立東海高等学校の生徒など、約150人のボランティアの協力がありました。

例年、国体のホッケー競技大会には、1万5千人を超える来場者を想定しています。茨城国体は、東京オリンピック開催の前年に当たることから、さらに多くの来場者が見込まれます。国体開催を契機に地域活性化を図ることを目的に、村民と行政が一体となって取り組む組織として「とうかい国体盛り上げ隊」を立ち上げました。村民の皆さんはもちろん、出場する選手たちの記憶にも残る大会を目指し、関係機関と連携しながら取り組んでいきたいと思っています。

「住みやすいまちづくり」

阿漕ヶ浦公園がリニューアル

茨城国体の開催に合わせて阿漕ヶ浦公園の整備を進めています。公園内には、国体開催後も、多くの世代の憩いの場となるよう、遊歩道や子どもたちの遊び場を整備し、児童と幼児用の2つのエリアからなる大型遊具を設置する予定です。



児童用遊具エリア

幼児用遊具エリア



駅西口広場など、住環境整備の推進
 茨城国体の玄関口として、JR東海駅西口の再整備を進めます。
 中央土地区画整理事業地内の神楽沢橋の架橋工事など、住みやすいまちづくりに向けて取り組みます。

「子育て・教育しやすいまちづくり」
待機児童ゼロを目指す取り組み
 10月に幼児教育・保育の無償化が実施されます。潜在的な保育ニーズの増加が予測されることから、新たな保育の受け皿となる施設に関する施策立案に取り組みます。
 保育サービスの質の確保策の一つとして、5月に「東海村病児・病後児保育施設」を村立東海病院の敷地内に開設する予定です。

一方で、全国的に保育士が不足する中、保育の質を高めながら、多様なニーズに対応するべく、保育士の処遇や職場環境の改善を図ります。保育士の確保に向け、村独自の施策立案にも同時に取り組みます。

村内小・中学校や公立幼稚園の空調整備の推進
 全国的な猛暑の中、熱中症予防対策が急務となっています。本村においては、快適な学習環境の提供のため、5月までに機器の設置を完了し、6月から稼働予定です。